



アラムナイ限定サイトのお知らせです

米国政府主催の交流プログラム参加者限定サイトを紹介します。

未登録の方はぜひご登録を
alumni.state.gov

アラムナイ同士の交流が図れるだけではなく、イベント情報、求人情報、ニュース、写真、補助金・奨学金などの情報も満載



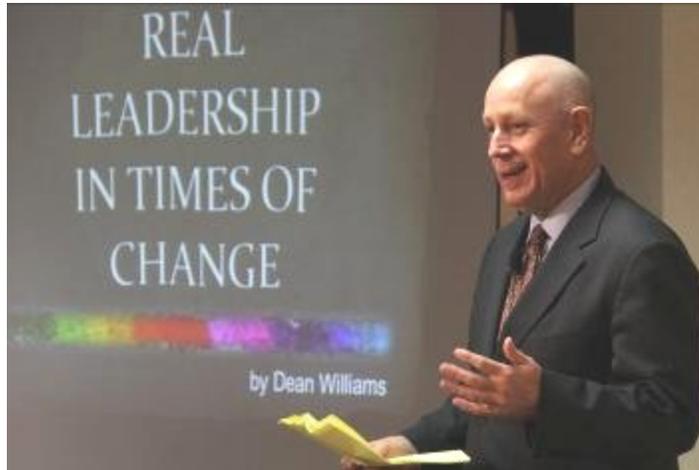
米国大使館
広報・文化交流部
Public Affairs Section
EMBASSY OF THE UNITED STATES, JAPAN

Inside this issue:

アラムナイ・ニュース	1-4
在沖米総領事館便り	5-6
アラムナイによる体験記	7-12
国務省運営の アラムナイ限定サイト リニューアル !! 「International Exchange Alumniウェブサイト」	13-16

ハーバード大ウィリアムズ博士が、リーダーシップ論を講演

2012年12月14日、[ハーバード大大学院ケネディスクール](#)のディーン・ウィリアムズ博士が来日。東京アメリカンセンターでアラムナイを含む約90名の参加者にリアル・リーダーシップについて講演しました。



東京アメリカンセンターで講義するウィリアムズ博士

一人のフルブライターがきっかけで講演が実現

このイベントはフルブライト奨学生(2007)の上野真由美さんがウィリアムズ博士の著書「[リーダーシップ6つの試練\(英治出版、2011年刊\)](#)」をハーバード大大学院ケネディスクール卒業生らと邦訳したことがきっかけで、アメリカ大使館とのコラボレーションが実現。

アラムナイと大使館とが一緒になって運営した大きなイベントの一つが成功に終わり、アラムナイアウトリーチとしても大きな一歩を踏み出すことができました。

ジャパントイムズや日本経済新聞に記事が掲載

参加者からは「会社や大学でリーダーシップの重要性が問われる一方、学ぶチャンスがほとんど無い。ハーバードで教えられているリーダーシップを理論として学べる貴重な機会だった」。「Time for Japan to let go of the status quo, U.S. leadership expert counsels」(ジャパントイムズ、2012年12月28日付)や「[在日大使館 学びの場に](#)」(日本経済新聞、2013年2月11日付朝刊)と題して関連記事が掲載されました。



ウィリアムズ博士の講義に聞き入る参加者



右から、アメリカ大使館広報・文化交流部副文化交流担当官 アン・B・マコーネル、上野真由美さん(フルブライター)、ウィリアムズ博士

フルブライターらが大学生対象のハーバード流リアル・リーダーシップ ワークショップを実施！

2012年11月23日～25日の3日間、東京財団にてフルブライターおよびハーバード大学院ケネディスクールのアラムナイらが、アメリカ大使館が主催した、大学生・院生向けのリアル・リーダーシップ・ワークショップに講師として参加しました。



一列目右から2番目：今井章子さん(フルブライター)、3番目：上野真由美さん(フルブライター)
ワークショップ最終日に、講師および参加者41名全員で集合写真を撮影

フルブライト奨学金の意義を体現した試み

このイベントは、フルブライト奨学生の上野真由美さんや今井章子さんらを含む総勢7名の同大学院卒業生が、グローバル人材が注目を集める今、同大で薫陶を受けたディーン・ウィリアムズ博士のリーダーシップ論を日本の大学生にぜひ伝えたいという情熱がきっかけで実現しました。

ワークショップでは、ウィリアムズ博士の提唱するリーダーシップの「6つの試練」という理論をリーダーシップを発揮する場面で実際に、どのように適用していけばよいかをフルブライターらが講義しました。

参加者は、定員40名のところ120名もの応募が殺到。経験則だけでなく理論的なリーダーシップを切実に学びたいと願う学生の情熱が、3日間の講義とグループワークを通じて講師陣に加速度的に伝わっていききました。

フルブライト奨学金の目的である「何らかの形で日米の相互理解に貢献できるリーダーを養成すること」、そして「帰国後は職業分野あるいは私的な活動を通して、直接的・間接的に日米関係の向上に貢献する」ことを体現したイベントにアメリカ大使館として協力できたことは何よりの喜びでした。



グループワークの成果を発表をする参加者

ビジネスの第一線で活躍する多彩な講師陣

国際的視野と現場感覚を兼ね備えた第一線のビジネスパーソンらが登壇。全体を統括するMCは、フルブライターの上野真由美さん。

一日目は、「個人とリーダーシップ」と題しケネディスクール卒業生でNPO Management and Policy Institute (MPI)理事長の山崎貴弘さんが、リーダーシップの6つの試練を具体的に解説。

二日目は、「あなたが属するコミュニティとリーダーシップ」と題し、東日本大震災復興支援財団専務理事の荒井優さんが、復興支援の現状や解決すべき問題等を被災地の目線から講義。

三日目は、フルブライターで東京財団広報渉外ディレクターの今井章子さんより「国家とリーダーシップ」について講義していただくとともに、青山社中株式会社筆頭代表・CEOの朝比奈一郎さんに「リアル・リーダーシップの実践」と題し、3日間のワークショップの総まとめをしていただきました。



第二日目の講師：荒井 優さん
(公益財団法人 東日本大震災復興支援財団 専務理事
ソフトバンク株式会社 社長室勤務)

日経BIZアカデミー(2012年12月11日)に「ハーバード流“リアル・リーダーシップ”を体感する」と題してイベントの記事が掲載されました。 → <http://goo.gl/N5nPx>

国務省同窓生室担当官とアラムナイが懇談

1月30日、東京アメリカンセンターにて国務省教育・文化局同窓生室担当官のジェイソン・ハセロット (Regional Coordinator for Europe and Eurasia) とケノン・ジョーンズ (Alumni Coordinator for East Asia/Pacific) らとアラムナイ24名が懇談。アラムナイが大使館とともに実施したイベントや、フルブライトやイースト・ウェストセンターの同窓会についてアラムナイより報告後、今後のアラムナイ・アウトリーチについて活発な議論がなされました。



左から、ケノン・ジョーンズ、ジェイソン・ハセロット、アメリカ大使館広報・文化交流部 副文化交流担当官 アン・B・マコーネル



自己紹介を行うアラムナイのみなさん

SUSI (アメリカの外交政策とリーダーシップスキルについて学ぶ5週間の米国研修) アラムナイが高校生対象のイベント “Feel Japan in the World ～世界に目を向けよう～” を実施

2012年9月8日、國學院大學渋谷キャンパス常磐ホールにてSUSIアラムナイや若手社会人らが、アメリカ大使館主催の下高校生を対象とした海外で学ぶことを促進するイベント“Feel Japan in the World ～世界に目を向けよう～”を実施しました。

イベントは二部構成。第一部の基調講演では、ライフネット生命保険株式会社代表取締役副社長 岩瀬 大輔 さんを迎え、「僕が感じた世界の中の日本 ～アメリカ・ハーバード大学で学んだこと～」と題して、米国留学や現在の仕事について講演していただきました。

第二部は、選抜された日本人高校生20名と日本に留学している外国人(アメリカ人等)高校生20名による、英語ディスカッションを実施。

参加した高校生は「イベントで体験した小さな異文化交流が、海外留学に強い興味を持つ自分を、一歩前に前進させてくれました」と強調。アラムナイによるユース・アウトリーチとしても成功を収めたイベントとなりました。



イベントを実施したSUSIアラムナイと若手社会人

イベントが企画された経緯

SUSIアラムナイの頼はるかさんが、2011年にモンゴルで開かれたアジア・太平洋地域アラムナイ会議に出席したことがきっかけでこのイベントを企画。

頼さんの所属するチーム(ベトナムなどのアジア地域のアラムナイを含む)が、会議内で実施されたアラムナイ・プロジェクト・コンペティションで見事優勝を勝ち取り、チームメンバーの各々の国が抱える課題についてアラムナイがイニシアチブをとることが決定。

日本では、高校生を対象とした「英語を通じたコミュニケーションの重要性」を伝えるイベントを実施することが会議内で決定し、開催の運びとなりました。



第二部英語ディスカッションに参加した高校生とSUSIアラムナイら

第2次安倍内閣重要ポストおよび自由民主党 三役にIVLPアラムナイが任命されました！

IVLP 1988

鈴木 俊一 氏 (衆議院議員)
外務副大臣



IVLP 1997

左藤 章 氏 (衆議院議員)
防衛大臣政務官



IVLP 2005

野田 聖子 氏 (衆議院議員)
自由民主党 総務会長



Alumni Media Coverage

和田 照子 さん

日本経済団体連合会職員
ガールスカウト世界連盟理事
フルブライト奨学生 2002

■「栄養と料理2013年3月号」(女子栄養大学出版部)の“暮らしのメモ① 私の防災スタイル「みずから考え行動できる力」”というコーナーで和田照子さんが紹介されました。

村田 喜代子 さん

作家 IVLP 1989

■2月24日の日本経済新聞書評欄にて、村田喜代子さんの著作『偏愛ムラタ美術館発掘篇』(平凡社)が、紹介されました。

秋庭 裕子 さん

一橋大学商学研究科講師
フルブライト奨学生 2003

■秋庭裕子さんの論文が、連載「[国際プログラムの学習成果分析とEポートフォリオ【第2回】事例紹介\(1\)北米東部の2大学における運用事例\(東北大学 米澤由香子氏と共著\)](#)として、[国際教育交流の専門情報誌“ウェブマガジン「留学交流」”](#)2012年12月号に掲載されました。

桜井 なおみ さん

NPO法人
「HOPE★プロジェクト」理事長
IVLP 2011

■2012年10月22日の東京新聞にて桜井なおみさんの活動を紹介する記事、「がん患者働ける社会に一乳がん、辞職経験 支援会社設立」が掲載されました。



■2012年大統領選挙模擬投票 イベントにて 明治大学・清原聖子先生 (フルブライト奨学生2005)が 投票結果を解説！

2012年11月7日、アメリカ大使館の講堂で高校生、大学生を対象の「2012年アメリカ大統領選挙模擬投票イベント」を開催。明治大学情報コミュニケーション学部准教授でフルブライトの清原聖子先生に、ミニレクチャーブースにて、CNNニュースとともに大統領選を解説していただきました。



ミニレクチャーのブースにて、
大統領選を解説する清原聖子先生(右)

中岡 望 さん

東洋英和女学院大学
教授
フルブライト奨学生
1981

■産経新聞の「Business i」(2012年10月16日号)に、中岡望さんの「そろそろ超低金利政策を見直すとき」と題した巻頭エッセイが掲載されました。

Alumni Award

秋葉 忠利 さん

AFS日本協会理事長
前広島市長
フルブライト奨学生
1968

■[オットー・ハーン平和メダル](#) (2012年12月・ドイツ国連協会より)および「[コミュニティ・オブ・クライスト国際平和賞](#)」(2012年10月・米ミズーリー州コミュニティ・オブ・クライストより)を受賞されました。



沖縄の本土復帰40周年記念

沖縄アメリカ交流プログラム同窓会の 発足記念・第一回会議をレポート！

寄稿：在沖米国総領事館 広報文化課
広報文化担当補佐官、アラムナイ担当者：森田 真紀子

沖縄アメリカ交流プログラム同窓会が、
2012年7月に発足！

沖縄の本土復帰40周年を記念して、沖縄アメリカ交流プログラム同窓会（American Exchange Program Alumni in Okinawa: AEPAO）が発足し、第一回会議が昨年7月に県内のホテルにて行われました。IVLP、ガリオア・フルブライト沖縄同窓会、東西センター、YFU、沖縄ハワイ協会やその他のアメリカ留学経験者ら約50名が参加しました。

沖縄アメリカ協会、ガリオア・フルブライト沖縄同窓会の
比嘉幹郎会長らによるプレゼンテーション

会議は、在沖米国総領事館から広報文化担当補佐官の當山綾、ガリオア・フルブライト沖縄同窓会の比嘉幹郎会長とIVLPアラムナイの豊川明佳さんによるプレゼンテーションで始まりました。



IVLP経験を発表する豊川明佳さん（IVLP2012）

普段あまり知ることがない領事館の業務やプログラムの紹介、英語教育推進の構想に、アラムナイの皆さんは興味を持たれた様子でした。

副知事の経験をお持ちの比嘉会長からは戦後の留学経験を話していただきました。

IVLPアラムナイの豊川さんは会議のおよそ2ヶ月前にMulti-regional project: Women and Entrepreneurshipのプログラムを終えたばかりで、フレッシュな体験談を聞くことができました。



プレゼンテーションに耳を傾けるアラムナイら

アラムナイによるテーマ別ディスカッション

～1. 沖縄における英語教育の推進

午後には3つのテーマ別で、グループディスカッションが行われました。

1つ目は沖縄における英語教育の推進です。小学校での英語教育が必須化したこともあり、子どもの時から英語に親しむことや英語教員やALTの質の向上などという意見が出されました。

→次ページに続く

アラムナイによるテーマ別ディスカッション

～2. 米国旅行の推進

2つ目は米国旅行の推進についてです。ESTAの無料化やワーキングホリデーを導入してはどうかという意見に始まり、アメリカは道が広く運転するのに適しているため、コースや観光スポットなどを盛り込んだ地図とGPS付きレンタカーでのロードトリップツアーの提案。またバリアフリー先進国であるため、車椅子利用者へのプロモーション等多くの意見が出ました。

アラムナイによるテーマ別ディスカッション

～3. 米国留学の推進

最後に米国留学の推進についてですが、大学生はもちろん高校生が留学できる制度の利用や奨学金制度のプロモーションに関する意見がありました。また留学はハードルが高いと思われがちのため、コミュニティーカレッジや短期留学の情報を提供すること、更には未だ新卒が有利となる日本の社会には留学からの帰国者への受け入れ制度が十分でないという経験に基づいた意見もありました。



アラムナイによるワークショップの様子

アラムナイ限定サイト:International Exchange Alumni
ウェブサイトに登録

参加したアラムナイは教育、政治、官公庁の関係者や一般企業から学生まで職種、年齢ともに多岐に渡り、多くの意見交換がなされました。また対象者にはState Alumniウェブサイト*への登録をその場で行ってもらうこともできました。



*State Alumni ウェブサイトは2012年12月にリニューアル。International Exchange Alumni ウェブサイトと名称を変更。

アルフレッド・マグルビー新総領事公邸で
レセプションを開催

また9月にはこの会議に招待されたメンバーを対象に、新総領事の着任にあわせてレセプションを開催しました。約20名のアラムナイが参加し、総領事と直接意見交換をして交流していました。

その中でも20～30代のアラムナイから、高校生のアメリカ留学を推進するためにはどのようなイベントや企画が必要かについて問題が提起され、県やその関係機関との連携についての意見も出ました。



総領事によるスピーチを聞くアラムナイの皆さん(於:総領事公邸)

AEPAOの更なる発展に向け、アラムナイの方々の
アイデア募集中!

このように、沖縄ではAEPAOが発足しました。若手のアラムナイを中心に今後の活動が期待されており、現在までに、ハッピーアワーなどのカジュアルなイベントやワシントンから来日したアラムナイコーディネーターとのビデオ会議へ参加したりしています。



第1回ハッピーアワー。大盛況でした!

過去にアメリカでの経験がある方同士でのネットワークを広げ、現在のアメリカとまたつながっていきませんか?

イベントに関するアイデアも募集中です。沖縄在住で、アメリカでの交流プログラムや留学経験がある方ならどなたでも参加できますので**在沖米総領事館 広報文化課 森田までお知らせ下さい。**(Email: MoritaMX@state.gov)

インターナショナル・ビジター・リーダーシップ プログラム 2009

参加プログラム: U.S. Education: Counseling and Support Systems for School Children

八並 光俊



プログラムテーマ

私は2009年9月に“US Education: Counseling and Support Systems for School Children”というテーマで、スクールカウンセリング、天才児教育、貧困教育、ホームエデュケーション、少年司法など多種多様な教育現場を視察しました。

この体験は、大学人生の3度の転機の一つとなる衝撃的な出来事でした。同時に、50歳という人生の節目での記念になりました。

アメリカ留学での開眼

最初の転機は、33歳の准教授時代です。

1991年に、アメリカ・インディアナ大学教育学部へ国費客員研究員として留学しました。当時、私が専門とする生徒指導は、いじめや不登校問題を解決する実践学として教育現場に浸透していましたが、大学の学問としては認知されていませんでした。

自分の研究に自信が持てずに、アメリカに渡り“Guidance & Counseling”という生徒指導研究の基盤となる学問に出会い、これだと思い無我夢中で勉強し、帰国後は生徒指導一筋で研究してきました。



筆者: 教職支援センターにて

知識と経験の刷新

第2の転機は、IVLPへの参加です。当時私は50歳でした。東京理科大学の教職課程のチーフ教授で、理科・数学の教員養成や大学院の研究指導にあたっていました。

また、文部科学省の視学委員や教育委員会のスーパーバイザー、学会の副会長や理事を複数兼務していました。多忙を極める日々で、自分の専門的な知識や経験を刷新しなければという焦りに近い気持ちが強くありました。

そのような折、アメリカ大使館からのご助言を受けて、このプログラムに参加させていただきました。アメリカは、スクールカウンセリングの先進国であると同時に、重い教育問題を多数抱えています。特に、その後者の問題解決の具体的な実態を見聞できたことは、私の研究だけでなく、教育にも参考になるものでした。

「理事長賞」受賞

第3の転機は、昨年の理事長賞です。

この賞は、「教育界に貢献し、法人又は大学の名誉を高めた教員」に与えられるものです。これまで2004年に准教授1名が受賞して以降、個人では2回目でした。大学に働いている者としては、この上もない名誉であり、自分の長年の努力と仕事が認められたと涙がでました。

受賞の背景には、IVLPが大きく寄与していることはいうまでもありません。これらの感動を胸に、今後も学内外の教育の改善・発展に努力したいと思っています。

筆者が受賞した「理事長賞」の表彰状



筆者プロフィール

八並 光俊

2009年 IVLP

参加プログラム:

U.S. Education: Counseling and Support Systems for School Children
東京理科大学大学院・教授

フルブライト研究員プログラム 2006 南カリフォルニア大学 鈴木 健



現在の仕事内容

2009年4月、明治大学に移籍し、現在、情報コミュニケーション学部教授に加えて、2012年4月には、さらに全学の国際連携副本部長に就任した。5月にヒューストンでの世界の国際交流関係者の集まりNAFSA参加、8月に学部のメンフィス大学夏期短期プログラムの付き添い、10月にはモンゴル日本留学フェアなど、世界中を飛び回る毎日である。

国際連携の仕事に携わっていると、3つの課題に関して考えさせられる。(1)各大学が自らのセールスポイントを決定して、予算とエネルギーを「選択と集中」して留学生を獲得し、送り出し学生を支援する必要性、(2)各大学が英語プログラムを整備すると共に、奨学金制度を公的機関と連携して充実させる必要性、(3)世界が優秀な留学生獲得に血道を上げる中、今後、日本がMBAを含む経営学のような実学中心で行くか、比較的語学のハードルの低い理工系中心で行くか、あるいは欧州のエラスムス計画のような広域単位互換・共同学位制度を目指すのかという長期重点戦略の決定。

上記のような取り組みは急務であり、日本が現代社会に資する人材を育て、国際社会に貢献できる人材を育てるために微力ながら私も取り組んで行きたいと考えている。

2006年4月から翌年3月まで、南カリフォルニア大学(USC)アネンバーグ・コミュニケーション学部でフルブライト研究員として過ごす機会を得た。お世話になった方々への感謝を込めて、近況をご報告したい。

USCでの日々

滞在中、政治メディアの権威やMTVの元ディレクターから、映画批評やジェンダーのクラスを聴講した。ハリウッド近郊に住んでいたため、映画会社のスタジオ、アカデミー賞の選考を行う映画芸術アカデミーや、授賞式会場のコダックシアターなどをフィールドワークすることができた。この1年を通じて、単なるエンターテインメントと思われがちなハリウッド映画を、文化・歴史・社会的に読み解くための批判的方法論(critical methods)を学ぶことができた。



ユニバーサルスタジオにて

その後の研究



メンフィスの
国立公民権博物館にて

2009年に『説得コミュニケーション論を学ぶ人のために』、『政治レトリックとアメリカ文化』、翌年、『パフォーマンス研究のキーワード』と精力的に研究活動に取り込むことが出来た。日本にあまり知られていなかった現実社会の言説を分析する「レトリック批評」(Rhetorical Criticism)や、私たちが日常生活で台本のないドラマを文化的に演じていると

考える「パフォーマンス研究」(Performance Studies)を紹介できたのは、まとまった時間を取ることができた在外研究のおかげであった。



国立公民権博物館にてメンフィス大学コミュニケーション学部長のマイケル・レフ教授と筆者(右から2人目)



南カリフォルニア大学
アネンバーグスクール
副学長のトーマス・
ホリハン教授と
筆者(左)

筆者プロフィール

鈴木 健
2006年 フルブライト奨学生
研究員プログラム
南カリフォルニア大学
明治大学情報コミュニケーション学部教授
明治大学国際連携本部副本部長

アイゼンハワー・フェローシップ マルチナショナルプログラム 2007 岩本 陽一

心を揺さぶられた2ヶ月間

「一体、何しに行ったの?」。アイゼンハワー・フェローシップ (Eisenhower Fellowship) プログラム終了後、この問いの前で何度、答えに窮したことだろうか。

一流の知見、50人にインタビュー

約2ヶ月の間にお会いさせて頂いた方は50人を超えた。外交・安全保障分野を中心に移民政策、女性問題、農業、メディア論や文明・文化論に至るまで、幅広い分野で一流の知見に接することができた。ジャーナリストとして何よりの収穫だった。



移民政策の難しさを痛感 (メキシコ国境)

それにしても、EFという組織とそのプログラムの何と寛大だったことか。アドバイザーと二人三脚で研究テーマや面接候補を決めた後は、ホテルの予約、インタビューの申し込み、レンタカーの手配などを全て代行してもらった。我々、フェローは映画「ミッション・インポッシブル」と同様、EF本部から数日おきにメールで送られてくる「指令」に従って肅々と「作戦」をこなすだけでいい。



各国から集まったフェローと頻りに意味不明のパーティーを開いた (左から3番目が筆者)

大型トラクターで畑仕事

親切なおアドバイザーはホームステイまで盛り込んでくれた。ホストファミリーはマサチューセッツ州の農家。4世代同居の大家族だった。早朝から大型トラクターで畑を耕し、昼は「全米で最もうまい」というホットドックに齧り付き、夜はくたくたになって一緒にプログラムに参加した妻とベッドにもぐりこんだ。



ホームステイ先では妻と一緒に収穫の手伝い (マサチューセッツ)



フィラデルフィアでは「ロッキー」のモニュメントの前で写真を撮りまくった。ルート66では「イージー・ライダー」に思いをはせ、帰国後のハーレー・ダビッドソン購入を決意した。「大統領の陰謀」の舞台となったワシントンDCでは、ロバート・レッドフォードになったつもりでウォーターゲート・ホテルの周りを徘徊し、サンフランシスコのUCバークレーではダスティン・ホフマン気取りでキャンパスを歩き回って「卒業」の気分を満喫した。



ロッキーの像の前で勝利のポーズ (フィラデルフィア)

「小さな事件」に強烈な印象

ここで再び、「一体、何しに行ったの?」。外交・安保に的を絞り、当たり障りのない話をするのは容易い。しかし、それだけでこの強烈な印象を説明できるだろうか。無防備な私の心は、思いもかけない「小さな事件」に毎日のように揺さぶられた。

2007年のフェローには目の不自由な女性がいた。同期全員でグランドキャニオンを訪れた際、「どんな景色か説明して」と頼まれた。言葉を尽くして風景を描写したが、もちろん何万分の一も伝えることはできなかった。ただ、彼女のお陰であの時の美しい渓谷の姿が今でもはっきりと目に焼きついている。

この女性はパウエル元国務長官主催のパーティーで堂々とスピーチした。身振り手振りを交えた情熱的な話しぶりにも感動したが、EFを支えている多くのスポンサー各氏が一斉に立ち上がって割れんばかりの拍手を贈ったときには、思わず胸が熱くなった。

恩返しを考える日々

さて、本文をどう結べばよいのだろう。ありきたりではあるが、やはり感謝の気持ちを伝える以外には手はないようだ。どういう形で恩返しができるのか、今も時々考えている。

筆者プロフィール

岩本 陽一
2007年 アイゼンハワー・フェローシップ
マルチナショナルプログラム
日本経済新聞社グローバル事業局企画部次長

フルブライト語学アシスタントプログラム 2011 セントオラフ大学 赤松 茉依

本当の国際人になるために

「日本以外の国で日本のことを伝えられる人こそ本当の国際人だ」と言う大学教授の言葉を聞いて以来、海外で日本のことを伝えることを意識していた。そんな私にとって、「アメリカで自分の文化を伝えながら留学する」というFLTA(語学アシスタントプログラム)は大きなチャンスだと思い応募し、2011年の夏渡米した。



大学のイベント「インターナショナルナイトでの日本紹介」

日本人として、世界市民として

日本語アシスタントの仕事を通して、自分の文化を伝える難しさややりがいを同時に経験した。日本語を勉強しているアメリカ人の学生は、私たち日本人よりも日本のよいところをたくさん知っているため、関わりを通して自分の国について学ぶ機会が多かった。例えば、生徒たちとソーラン節を披露した際には、「どうやったらあんなにみんなそろってきれいに踊れるの?」と日本独特の息がそろった踊り方が好評であり、日本の良いところを指摘されるたびに自分の国を誇りに思うようになっていった。



セントオラフ大学の日本語を勉強している生徒たち



一方で、控えめを美德とする日本社会が海外ではマイナスに働くこともある。履修していた授業では、ディスカッションに自分から入っていかないとすぐに授業から取り残されてしまうため、積極的に授業に参加することが求められた。アメリカではプレゼンテーションやディスカッションなど、クラスで発言することが当たり前だが、発表することに慣れていない私にとってはそれが苦痛で仕方がなかった。

日本から一歩外にでると、相手の文化も尊重し、日本人としてだけではなくグローバルスタンダードを意識して行動しなければならないということをこの一年間の留学で痛感した。

海外で日本を伝える人になる

留学中に「アジア地域化」の授業で、東日本大震災以後の原子力エネルギー政策について発表をすることになった。クラスメートが全員アメリカ人であったため、今の日本の現状を知ってもらいたいという思いとアジアのこと、日本のことを伝えたいという思いで、震災のことや原子力発電所のことを必死で調べた。調べているうちに問題の深刻さと原子力エネルギー政策という分野では日本は色んな点において欠かせない立場であることに気付き、この問題に対してより深く研究したいと思うようになった。これをきっかけに、今後はエネルギー政策に焦点を絞った研究をするための準備をしている。

そして将来は、今後のアジアのエネルギー政策に携わる仕事に就きたいと考えている。渡米前は漠然としていた将来像が、アメリカでの様々な経験を通して、自分の国を客観的に見ることによって明確になった。今後、見つけた新たな目標に向かって頑張っていきたい。



アリゾナ大学にてフルブライト夏期オリエンテーション

筆者プロフィール

赤松 茉依
2011年 フルブライト奨学生
語学アシスタントプログラム
セントオラフ大学

インターナショナル・ビジター・リーダーシップ プログラム 2011
参加プログラム:U.S. Patient Groups and Health Policy
桜井 なおみ



がんをどう考え、伝え、変革してきたか
…政策・医療・患者

はじめに

2011年4月、4人のがん経験者とともに、米国の医療事情や政策、患者会活動を学んできた。多くの関係者の皆さまにこの場をお借りして御礼を申し上げます。

IVLPを通じて私が学びたかったことは、1)医療政策への患者参画、2)医療制度の違い、3)創薬など臨床研究の現状の3点だった。

地域で支える…パブリックヘルスを考えることが基本

IVLPでは多くの患者支援団体、政策立案者・行政、医療施設を訪問した。そこで学んだのは、多職種からなるチーム形成、寄付・奉仕活動の活発さ、家庭医としての医療施設の在り方だった。

米国では、医療従事者や税理士、弁護士など多職種の人が患者支援活動へ参加をし、得意領域を活用した患者教育や運営が展開されていた。この活動を支えるのがボランティアと寄付。また、家庭医や総合病院が、地域の公衆衛生や疾病教育の拠点として機能していた。

何度も聞いた「パブリックヘルス」という言葉。その概念が、政策や患者会活動、そして研究においても全ての基本になっていた。個人的な感情や経験ベースになりがちな日本の患者会活動において、「公共」という概念は今後欠かせない視点だと私は感じた。



IVLP参加初日にホワイトハウス前にて全員で
(右から一番目が筆者)

日本のがん政策を変える…IVLPの大きな成果

帰国後、国のがん対策推進協議会では、視察で学んだ知識を早速活かすことができた。小児がん支援や相談支援体制、就労・経済問題においては、FMLA法やADA法の経緯や概要を紹介したほか、病院や地域での中長期的な患者支援、施策などを紹介した。

結果、日本のがん対策(2012年6月閣議決定)は大きく変化を遂げ、「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」という大きな柱が、そして、小児がんや働く世代へのがん対策の充実などが重点事項として「新たに」加わった。言語のストレスなく、詳細なヒアリングができたからこそ、実現できた成果だと私は思っている。



アメリカ対がん協会主催のがん啓発
チャリティイベント リレーフォーライフ会場にて

未来…経験を世界に還元すること

2011年3月11日。日本は未曾有の災害に見舞われた。映像で繰り返し流される被災地のニュースには胸が痛くなった。生命を見つめる大きな経験は、その人の人生を豊かにすることを私たちががん経験者は知っている。私は災害・緊急時の医療体制や政策、メディアの在り方について日米がともに学びあえる機会をIVLPで設けて頂きたいと願っている。その際には喜んで参加をしたい。

筆者プロフィール

桜井 なおみ

2011年 IVLP

参加プログラム:U.S. Patient Groups and Health Policy

NPO法人「HOPE★プロジェクト」理事長

フルブライト大学院留学プログラム 2007 ハーバード大大学院ケネディスクール 井上 陽子

平均39歳のクラスメート

2007年から2008年にかけて、私はハーバード大大学院ケネディスクールで学んだ。社会問題を追う記者生活が10年を過ぎ、より根本的に、政策について腰を落ち着けて学びたいと思ったことがきっかけだった。「ミッドキャリア」と呼ばれる修士課程で、クラスメートの平均年齢は39歳。肩書を聞けば萎縮してしまうような輝かしいキャリアの持ち主たちに囲まれて、緊張しながら迎えた学期の初日、ある教授が投げかけてくれた言葉が、今も強心に残っている。

「ここでは、自分が素晴らしいことを証明する必要はない。いかに多くを学ぶかを最優先に、過ごしてほしい」

肩ひじを張った気持ちはすっかり抜けて、気の合う仲間と飾らずに議論し合った。濃密な1年間を過ごしてから4年が過ぎたが、今でもとても懐かしく思い出す。

ディスカッション形式の授業では、議論にどれだけ価値を加えられたかが評価の基準となる。「公共の倫理」といった授業で、米国人と同じ議論を展開しては、私がいる意味はない。かといって「東洋的」な拘り定規の意見を言っても、底の浅さは見え見えだ。私は何を訴えたいのか。立ち止まり、自分の考えを掘り下げるような日々だった。



急ぎよ会議場の廊下で行ったインタビュー
(スウェーデンで)



ドイツで友人に再会

帰国後、新聞社に戻り、国土交通省、東京都を担当。2012年春からは環境問題の担当となり、約半年間でスウェーデン、ドイツ、ブラジル、インド、韓国と5か国を回った。

担当になって2か月目に訪れたドイツで、約190か国の交渉団が集まる国際会議に放り込まれた時には、たまたま再会した大学院時代の友人に随分と助けられた。イタリア人の彼女は、国連の環境会議の常連。日本の交渉団から聞くだけでは知ることができない視点を得ることもでき、とてもありがたかった。



国連会議で
大学院時代の
友人と再会
(ドイツで)

海外取材では思わぬ事態に冷や汗をかくことも度々だが、対応力は大学院時代に身についたかもしれない。スウェーデンでの取材相手は、注目の論文を執筆した科学者だった。多忙なスケジュールの合間に取り付けたインタビューの約束は、場所や時間が二転三転。結局、人の行き交う会議場の廊下で話を聞くことになったが、いきさつに同情した教授は予定の倍以上の時間を割き、心躍るような面白い話をしてくれた。

充実した学生生活を過ごし、現場に戻ってくることができたことはありがたい。状況や判断が難しくなればなるほど、あの1年間の経験は生きてくるような気がしている。

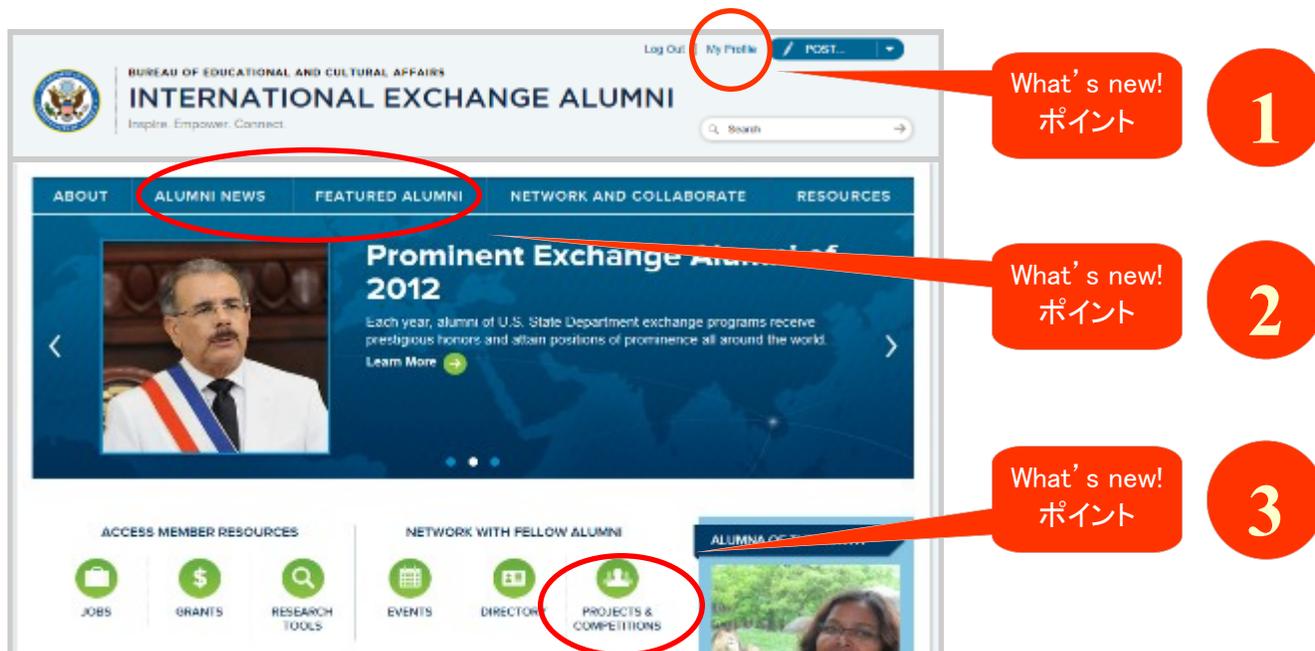
筆者プロフィール

井上 陽子
2007年 フルブライト奨学生
大学院留学プログラム
ハーバード大大学院ケネディスクール
読売新聞記者

国務省運営のアラムナイ限定ウェブサイトがリニューアル！！

より双方向的で、より速く、よりユーザーフレンドリーなウェブサイト生まれ変わりました♪

今すぐアクセス→ <https://alumni.state.gov>



Q 1: リニューアルして、何が新しくなったの？

ポイント① : My profileに自身のSNSアカウントやWEBを登録可能！ 世界のアラムナイと繋がる。



- My Profileをクリック→Profile Setting→Update Your Profileと進むと、Websites and Social Media という項目が登場します。
- 1)Facebook、2)Twitter、3)LinkedIn、4) Others および各種WEBが登録できます。
- 登録後は、ご自身のMy Accountの右コラムに、登録したSNSが常時表示され、International Exchange Alumni Website上に居ながらにして、SNSを通じて世界のアラムナイと繋がることができます。

ポイント② : アラムナイでなくても、Alumni NewsやFeatured Alumniにアクセスできる！

ポイント③ : 自身でプロジェクトを計画・募集したり、各国のアラムナイのプロジェクトに参加できる！



- Network And Collaborateタブをクリック
→左コラムのProject & Competitionsをクリック。
- 1)Join an Existing Project と 2)Start Your Own Projectの2項目が登場します。
- 1)では、世界のアラムナイのプロジェクトに参加することができます。
- 2)では、ご自身で計画した様々なプロジェクトを投稿し、各国のアラムナイの支援や参加を呼びかけたり、世界のアラムナイとコラボできます！

Q 2: ウェブサイトに登録すると、アラムナイにとってどんな特典があるの？

特典ポイント

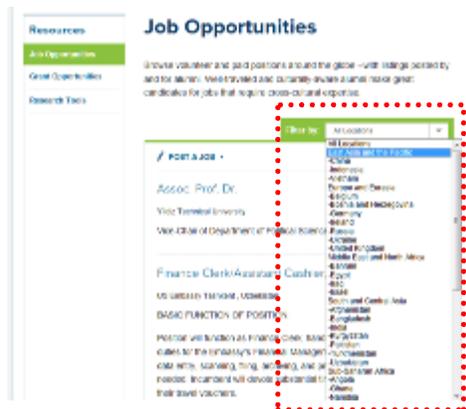
1

特典ポイント

2



特典① Jobs : 世界で募集されている仕事を検索でき、就職の機会を見つけられる！



- Resourceタブをクリック→左コラムのJob Opportunitiesをクリック。
- 国や地域を選択する。

- Job一覧が表示された画面の最下部にあるSEARCH ALL JOBSをクリックする。
- 表示されたJob Opportunities の右コラムのFilter Jobsで1) 仕事の分野や専門領域、2) 仕事の種類、3) 募集されている仕事の投稿日などを選び、さらに、絞り込んだ検索ができる。

特典② Grants : 22,000件以上の(約330億ドル)の助成金を COS Funding Opportunityで検索可能！



- Resourceタブをクリック→左コラムのGrant Opportunitiesをクリック。
- 右コラムのCOS Funding Opportunityをクリック。
- 詳細検索で検索開始。
- 検索オプションでは、助成金の「締切日」、「助成金額」、「主題」、「活動場所」、「要件」、「方法論」、「スポンサーの種類」に至るまで、詳細な条件設定で、検索が可能！





特典③ Research Tools : 20,000件以上の学会誌・雑誌等のデータベースに、無料でアクセスできる！

1. EBSCO Host

- **Academic Search Premier™**
4,600以上のジャーナル(Full text)が閲覧できる。
- **Science & Technology Collection™**
科学や技術関連分野の820以上のジャーナル(Full text)が閲覧できる。

2. Gale Cengage Learning

- **Power Search** 下記データベースを総合検索サイト
- **Diversity Studies Collection**
多様性や異文化などに関する約500万以上の記事が閲覧できる。
- **Gender Studies Collection**
20万以上のジェンダー関連記事が閲覧できる。
- **Health Reference Center Academic**
1300万以上の健康に関する記事が閲覧できる。
- **Small Business Collection**
1000万以上のビジネスやアントレプレナーシップに関する記事が閲覧できる。

オススメポイント！

- 表示されたテキストの日本語の簡易翻訳が可能！
- 「Listen」をクリックすればテキストを読み上げるサービスも！

3. ProQuest

- **eLibrary**
2,000以上の雑誌や新聞等(Full text)が閲覧できる。

4. Other Resources

- **Forum**
国務省が四半期ごとに提供する「英語を第二外国語として教える教師」のためのウェブサイト。
- **ICAST Gateway for free E-Journals**
ビジネス&マネジメント、化学、地球科学、ITなどの分野をカバーする700以上の無料eジャーナルを提供するウェブサイト。

特典④ Events & Directory : 世界各国のアラムナイの連絡先や世界中のイベントが検索可能！

● **イベント検索**

● **アラムナイの連絡先検索**

● **アラムナイ・アソシエーション検索**

Q 3: 国務省や大使館のソーシャルメディアって何があるの？

Facebook

国務省 International Exchange Alumni



<https://www.facebook.com/InternationalExchangeAlumni>

アメリカ大使館 ConnectUSA



<http://www.facebook.com/ConnectUSA>

Twitter

国務省



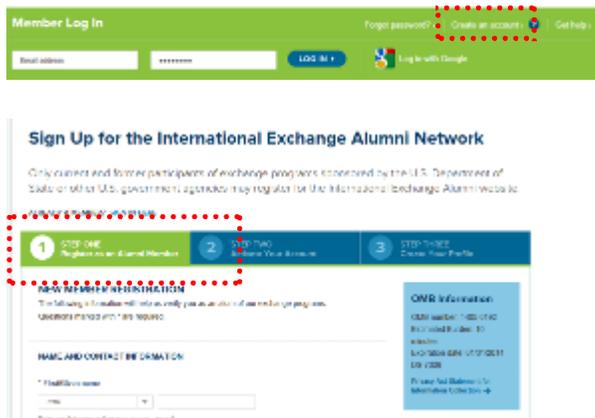
<https://twitter.com/StateDept>

アメリカ大使館 USConnect



<https://twitter.com/USConnect>

Q 4: ウェブサイトには、どうやって登録するの？



※ご留意点:

国務省のスタッフが10日以内に提出された登録情報を審査・確認して、会員として承認するかどうかを判断します。

アカウントが承認されれば、アカウントの承認通知と、そのアカウントをアクティブにするよう求める電子メールが送付されます。

●新規登録の方

- ① International Exchange Alumniウェブサイトへアクセスする。
- ② ホームページの会員ログインのセクションで、「アカウント・リンクを作成する」のリンクをクリックする。
- ③ 登録フォームの必須情報を書き込むことにより、ステップ1を完了する。
- ④ 適切なプログラムの全情報(パスポートに記載の氏名、プログラムの日付など)を記入するよう確認してください。ドロップダウン・メニューからプログラムの適切な名称を選択してください。
- ⑤ 全ての必須情報の記入を完了してから、スクリーンが一番下にある「自分の情報を提出する」のボタンをクリックしてください。

●旧ウェブサイト上で、すでに登録を済ませられている方

- ① International Exchange Alumniウェブサイトへアクセスする。
- ② 旧パスワードでログインしてください。
- ③ パスワードをリセットしてください。
- 再登録完了



アラムナイ・コーディネーターがInternational Exchange Alumniウェブサイト登録を代行いたします。お気軽に下記までご連絡下さい。

連絡先: 米国大使館 広報・文化交流部 下手 円
ShimoteMX@state.gov

米国大使館
広報・文化交流部
Public Affairs Section
EMBASSY OF THE UNITED STATES
JAPAN